

沖縄連帯基金 辺野古ゲート前座り込みを中心とした 運動の参加者募集

第2回理事会議案の協議事項として、ご説明させていただきましたように12月1日より、「沖縄連帯基金」による辺野古ゲート前の座り込みを中心とした現地での運動が始まりました。

この活動のために、現地でアパート2部屋・車1台が用意されております。この2部屋を各関連組織で割り当てたスケジュールで参加者を募集しています。

○高齢協割り当て日程（下記期間に各一部屋の使用が可能となります）

2月16日～ 2月22日

4月12日～ 4月18日

○基金からの支給

各団体の期間毎、一名分についての旅費を支給。

（食費等は、各自での負担をお願いいたします）

○車の運転が可能な方

（車が運転できないと毎日早朝の座り込みを始めとした現地での移動ができません）

なお、上記高齢協日程と同時期に割り当てのもう1部屋に宿泊される方と現地で共に活動していただくこととなりますことを、ご了承願います。

参考：高齢協日程と同時期の別部屋割り当て部署

2月16日～22日（労協連池袋本部）

4月12日～ 4月18日（中四国本部事業所）

以上の条件での現地での活動が可能な方がいらしたら、（別紙）申込用紙に記載の上
高齢協連合会事務局本間まで、

提出期限：1月17日（日）

メール：info@koreikyo.jp もしくは ファックス：03-3971-8222宛に

お申込願います。なお、お申込の方には、日本社会連帯機構の担当から直接ご連絡させていただくことがありますことをご了承願います。

参考報告：辺野古体験雑記

【12月6日滞在5日目 日本社会連帯機構 玉木事務局長のFacebookの投稿から】

機動隊との接触について「がんばって！」と声をかけられることがあります。

座り込みは、一分一秒でも辺野古工事を遅らせることが一つの目的。そして、抵抗の最前線を社会に伝えることかと思えます。

しかし、機動隊との毎日毎日の接触は、とても悲しい、疲れるものです。

私はただの一週間ばかりですが…。

正直、座り込みと毎日毎日経験する強制排除はまったく苦しいものですが、この活動の縁で、魅力的な人にたくさん出会えることは幸せです。

機動隊の最前は20代、しかも沖縄県警の機動隊は、自分のおじいやおばあから戦争体験を聞いている。互いに知り合いもいる。涙を流して強制排除に取り掛かる機動隊員もいる(これは聞いた話)。

でも実感として複雑な表情をしている機動隊がたくさんいる。逆に暴力的な機動隊もいるけれど、機動隊もひとりの人間です。

そんなことがあり、政府は沖縄県警の情を、「生ぬるさ」と判断したと思われ、11月から警視庁機動隊(東京)を入れました。それでも最初の強制排除は県警の仕事。ほとんど集結したあとに、警視庁機動隊が登場してくるらしい(機動隊の区別は見た目では判断できません)。

警視庁の彼らはリゾートホテルに毎日宿泊、県警はおそらく自分の家に帰宅します。県警機動隊になる若者は経済的に厳しい生い立ちの若者が多い。教育関係者から聞いた話です。

私たちは機動隊と戦っているのではなく、米国の言いなり、高見で見物、地域の分断を強いる現政府こそ、本当の相手です…。辺野古の反対運動のリーダーやメンバーはそのことと非暴力を徹底しています。初めて座り込みに入る私にもしっかり教えてくれました。

誰も対立と抗争を楽しみとは思えない。

それでも、日本の変化は沖縄から来ると感じました。青い空、青い海、人の笑顔とユーモアがあり、最も辛い思いを強いられた沖縄だから。

明日、村に帰ります。

—米軍の実弾演習が、今の時間(夜間11時)も鳴り響く辺野古より—

